

編集後記

本号は、昭和五五年より本学で仏教学の研究と教育に当たってこられました森山清徹先生の古稀記念号でございます。

本号には森山先生の本学における最終講義「仏教学を学んで」の講義録を収載させていただくことができました。先生にはお忙しい中、講義録をご点検いただきましたこと、厚く御礼申し上げます。また、最終講義のみでなく、後期中観派について、形象虚偽論者トリラトナダーサ、シュバグプタ、形象真実論者シャーキヤブッディに焦点を当てたご研究の論文も頂戴いたしました。重ねて御礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症拡大により、四月から五月に第一回目の緊急事態宣言が出されました。年が明けて一月初旬に出された第二回目の宣言は、この後記を執筆している一月末にはまだ解除されていません。感染防止の観点より、本年度は学術大会の開催を中止いたしました。

このような状況にも関わらず、本号には多数の研究成果を頂戴することができました。本学名誉教授の並川孝儀先生からは、最古層経典における *sata*, *sati* について。本学教授の松永知海先生からは、影印高麗版大蔵経について。本学教授の松田和信先生からは、不浄観を説く中阿含経について。東京大学共同研究員兼龍谷大学非常勤講師の伊藤真昭先生からは、増上寺学寮の無為窟で学ぶ人びとについて。大阪経済法科大学アジア研究所客員研究員の辻本俊郎先生からは、響堂山石刻本と金粟山大蔵経写本の『無量寿経論』について。本学非常勤講師の馬場久幸先生からは、『高麗国新雕大蔵校正別録』の『本事経』巻3について。佛教大学総合研究所特別研究員の肖越先生からは、『無量寿経』諸本のタイトルについて。本学非常勤講師の唐井隆徳先生からは、「触」と「受」の用法から見る縁起説について。大学院博士課程仏教学専攻の吹田隆徳氏からは、般舟三昧の原様相について。大学院博士課程仏教学専攻の中島正淳氏からは、*upadana* をめぐる世親の思想的変遷について。大学院博士課程仏教学専攻の久保田實氏からは、近代における仏教論議研究について。また、法然仏教学研究センター嘱託研究員の米澤実江子先生からは義山における「旃陀羅」の解釈についての研究ノート、大学院博士課程仏教学専攻の横田友教氏からは鎌倉光明寺に所蔵される『元祖大師五百五拾年御忌規鑑』（仮題）の紹介と翻刻の研究ノートをご投稿いただきました。以上、最終講義録一本、論文十二本、研究ノート二本を収載することができました。ご寄稿賜りました諸先生方には改めて厚く御礼申し上げます。

会員の皆様には、本紀要へのご投稿、その他本会の活動へのご協力をお願い申し上げます。なお本誌は、佛教大学より出版助成を受けて刊行しております。関係各位に衷心より御礼申し上げます。

（編集委員会は、会長松永知海と会報編集委員の本庄良文・松田和信・田山令史で構成されています）

（市川記）